



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などを聞き取るものです。

# 立場をこえて 人間同志の共感を

● 郵政省事務次官 守住有信氏

東京霞ヶ関の郵政省事務次官室に、守住有信氏を尋ねた。非常に気さくな人で、まさしく九州男児といったタイプ、快くインタビューに応じてくれた。「住まいを守り、平和を守る。住まいは守るが建設省じゃありません。」と自己紹介されるなど、なかなかユーモアのセンスもある。また、誠実さを失わずに、どんなに対立があっても人間的にはどこかで理解しあえると信じていれば道は開けると語る人情味豊かな人でもある。

## 五高サボリ部

弟はすぐ上が兄で、その上が姉二人おりましたけどね、二番目の姉は女学校で早死しました。一番目の姉とは歳の違いがうーんとありまして、ぼんやりとした記憶ですが、二人で歩いていた時に親子と間違えられたというような覚えがありますね。たしか歳が十五位離れてましたでしょうか。

**熊本市出身**  
熊本市大江町九品寺(現在の熊本市九品寺)の出身です。祖父が眼の医者を開業してました。学校は、自宅目の前の王業幼稚園から白川小学校へ行ったんですが、子供の頃から体ががちりして大きかったもんだからどうも少し悪ざろでね、いわゆるガキ大将でしたかなあ。(笑)ですから、小学校でも比較的自由でのびのびやりましたよ。まあしかし、私の母は戦前の教育ママみたいなものでしたから、私が出た道は踏みはずそうとするんで心配してたようです。先生方の話によると、

まことに教育熱心で小学校のときからよく授業参観に来てたらしい。当時はあんまりそんなことがなかった時代でしたけど。一方父親は、小学三、四年頃第一次大戦後のドイツに留学し、熊本高等工業(現在の熊本大学工学部)で機械工学とドイツ語の先生をやったからやはり学者タイプでしたね。それで書齋にはドイツ語の本なんていっぱい並んでまして、どっちかという子供のこととはもうほとんど母親任せみたいな感じでした。実は私、父や母がだいたい年取ってから生まれまして、四十代になってからでねえ、それでまあいちばん末っ子で鬼子って言われました。兄

エナメルを塗った白い球を追っかけて真暗になるまで走ってたんだけど、一年でやめてしまいました。しかし当時は、とにかく何かのクラブに入らなければならなかったでしょ、それで別名「サボリ部」といわれた「一般鍛練部」に入っただけです。この部は別名のおおサボリ専門で、サボってばかりおるんです。それだからというわけではないけれども教練もサボって一時間も出ないといって大騒ぎになったりしましたな。(笑)教練といえば一年の時、軍務局長がみえて上級生中心に講堂で講演したところ、終わった後でみんなが冷笑してしまっただけですね。そうしたら、そ

の軍務局長はカンカンになってね、それまでは、「若者は自由にのびのびとやっておれば良い」というふうな感じの方で、人柄のいい退役将校がいらつしたんですが、配属将校からその部下までみんな取替えてしまいましたよ。そして、その次にみえた配属将校は、そりゃあもう厳しい方でした。それにしても、教練の時間出なかったのは五高で三人しかいませんでした。最後まで頑張ったのは。頑張ったというのもおかしいですけどね。それで教練検定不合格となって、これが兵隊までずつとついてまわって随分苦労しました。

## 公労法適用

京都大学入学後、数カ月しか経たないうちに応召で、軍隊に入りました。戦後は、一度は京都へ行きましたが、歴史から社会科学に興味を持つようになり、資本主義論争が盛んに行われていた東大を受けなおすことにしたんです。インフレの中で両親は働かず、家計が苦しかったこともあって、在学中は生活費を稼ぐのに必死でした。それで東京での生活に疲れていたのかもしれないが、病床の父と老いた母もいるので、卒業後は郷里の熊本に就職しようと思うようになりました。当時通信省といえば、熊本通信局が家の近くにありましたが、なんとなく私の田舎(いなか)というイメージがあり、また、本省の課長をしておられた先輩の佐方信博さん(現在富士重工副社長)にもお願いして通信省へ入ることになったんです。入省してすぐの頃、みんな論文を書かせられたんですが、私は立場上組合員になれなかったんですが、このとおりの血の気も多かったし、だいたい若かったでしょう。労働組合運動でも飛び込んでいっちゃおう。という気概があつて、論文の中でそういう労使関係論みたいなものを一杯書いたんだなあ。たとえば、「郵政事業というものは、多くの職員を擁し、大衆との接点が多いサービス事業なのに、権力的な性格を有する他の行政機関と全く同じようにその労使関係に国

## 略歴

- 大正十三年八月、熊本市に生まれる。
- 熊中・五高を経て東大経済学部へ進む。
- 東大卒業後郵政省入省。
- 人事局長、郵務局長、電気通信政策局長等を経て現在郵政省事務次官。

